



令和6年度 大中山小学校 働き方改革の取組



子どもと向き合う時間を増やす

教員の一番の仕事は、子どもたちにとって「わくわくする授業」を提供し、確かな学力を身につけさせることです。そのために、授業づくりの時間や子供と触れ合う時間を増やすことが重要です。

目的

教職員が健康でやりがいのある環境づくり

日頃から子どもたちに教える先生が健康であることが一番です。しかし、長時間勤務が日常化し、体調を崩す先生もいます。日常の業務改善を進め、体と心に余裕をもって子どもたちと接することが必要です。

1 公務の効率化と役割分担の推進

2 部活動指導に関わる負担の軽減

北海道アクション・プラン第3期とのかかわり(以下A・P)

5 学校サポート体制の充実

学校における働き方改革北海道アクション・プラン第3期…北海道教育委員会が定めた「教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」です。

3 学校運営体制の見直しなどによる改善

4 意識の変容を促す取組

本校の具体的な取組

学校内で行う取組

定時退勤日の設定(※A・P1) 金曜日を定時退勤日とし、午後4時25分の退勤を心がけています。※職員の勤務時間 午前7時55分～午後4時25分

その結果

職員みんなが午後4時25分の退勤はできていない現状です…。ですが、普段に比べ、その日は効率的に仕事をこなし、早めに帰宅しようという意識が高まっています。

終会の削減(校務支援ネットワークの活用)(※A・P1) 以前は児童が帰った後の終会を毎日行っていたのですが、火曜日と木曜日の週2回に削減しました。職員間の連絡や情報共有は、C4thという校務支援ネットワークシステムで行うようにしました。

その結果

終会の回数が減った分、放課後の限られた時間に、より効率よく業務ができるようになりました。

C4thによる出退勤時間の確認(※A・P1) 出退勤をタイムカードで記録し、C4thという校務支援ネットワークシステムで管理しています。職員は、定期的にC4th上で自身の時間外勤務時間を確認しています。

その結果

時間を意識した働き方を実践できるようになり、より一層意識改善を図ることができています。

学校閉庁日の設定(※A・P3) 今年度は、下記の期間を予定しています。この期間は原則として、職員は出勤しません。緊急の連絡は、七飯町教育委員会(TEL66-2067)となります。〈夏休み〉8月8日(木)～15日(木)〈冬休み〉12月26日(木)～1月5日(日)※祝祭日を含む

その結果

心も体もリフレッシュして、新鮮な気持ちで、新学期を迎えることができています。

働き方改革取組への意識を常にもつ(※A・P4) 働き方改革コアチーム(学校運営委員会)が中心となって、常時働き方改革につながる取組を職員自身が模索し、実行しています。

その結果

業務削減だけでなく、職員自身のやりがいにつながる取組、児童の成長につながる取組という観点で、職員全員から広く意見を募り、可能なものは即実行しています。職員自身が働き方改革の意識を実感しています。できることはまだまだ実行に移していきたいと考えていますので、ご理解をお願いします。

相談しやすいオープンな雰囲気作り(※A・P5) 子供のことを中心に、学年や役職関係なく相談できるあたたかい雰囲気作りを職員全員で心がけています。

その結果

職員が一人で抱え込まず、チームとして取り組んでいます。多様な意見から、適切な指導・対応ができるようになり、負担軽減ややりがいにつながることができています。今後もこの良い雰囲気作りを意識的に継続していきます。

保護者や地域の協力を得て行う取組

留守番電話の導入(※A・P1) 平日の電話対応を午前7時30分から午後5時30分までとしています。この時間以外は、全て留守番電話対応としています(町共通取組)。時間外の緊急連絡は、七飯町役場(66-2067)へ。また、電話回線を増やしたことで、放課後も電話につながりやすくなりました。

その結果

職員は、以前よりも勤務時間を意識して、出退勤することができています。

フォームを活用した欠席や遅刻等の連絡(※A・P1) 保護者に欠席や遅刻等の連絡を電話ではなく、Googleフォームでお願いしています。その連絡も、担任は教室に居ながら、Chromebookで確認しています。

その結果

担任は教室で子供たちを迎えることができ、朝の活動にもゆとりができました。保護者が直接担任とお話したい場合は対応しています。また、Googleフォームの活用により、担任以外の職員も児童の様子(状況)を共有することができました。

教材費の口座引落し(※A・P1) これまで担任が現金で徴収した後、金額を確認して、業者に支払っていましたが、ゆうびん局の保護者の口座から引落しに変更しました。

その結果

担任の負担が大きく削減されました。児童と向き合う時間の確保や時間外勤務の削減につながることができています。

学級通信を廃止し、学年通信・ホームページで児童の様子を伝える(※A・P1) 全学年、学級通信を廃止し、学年通信やホームページで児童の様子や連絡を行っています。

その結果

伝える情報を一元化することができ、また、学年の中で輪番で通信を作成するため、効率化が図られました。ただし、限られたスペースで、上手に児童の様子を伝える方法を常に模索しながら作成している段階です。

保護者や地域とともに児童の登下校の見守る(※A・P3) 職員は年度初めに街頭指導を行いますが、保護者や地域の方にも日頃の登下校の見守りをお願いしています。また、PTA活動の一環として「0のつく日は行ってらっしゃいDAY」(日にちに0がつく日は歩道や玄関前で「行ってらっしゃい」と声掛けをする活動)を各家庭にお願いしています。

その結果

保護者・地域・学校が一体となって、児童の成長を支えるという意識を高めることができています。また、朝の街頭指導の回数が減ったことで、担任は教室でゆとりをもって子供たちを迎えることができ、子供と向き合う時間につながっています。

効果的に家庭学習に取り組む(※A・P5) 学校では予習・復習につながる宿題を出しています。また、内容の例を紹介したり、アドバイスをしたりして、自主学習の取組を後押ししています。ご家庭においては、宿題や自主学習と一緒に取り組んだり、マル付けをしたりと、サポートをお願いしています。また、スマイルドリルやまなびボックス、ミライシードなどのデジタルドリルも宿題に積極活用しています。

その結果

学校と家庭が連携して家庭学習をサポートすることで、児童の学習状況を共有することができ、児童が効果的に取り組むことができています。児童が、より一層主体的に取り組めるよう、様々なアイデアをもって、家庭学習への価値付けを行ってきたいと考えています。デジタルドリルも主体的な学びのツールとして非常に有効だと実感しています。

コアチーム(学校運営委員会)が中心となって、全職員で推進